


令和 3年 6月 3日

浜田市議会議長  
川神 裕司 様

議員名 柳楽 真智子  (印)

## 調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

### 記

1. 期 間 令和 3年 5月 19日 (水) 13:00 ~ 15:00
2. 研修内容 「住み続けられるまちづくり」 <SDGs シリーズ>
3. 研 修 先 株式会社 図書館総合研究所  
オンラインセミナー
4. 調査経費 5,000 円  
( 経費内訳 受講料 5,000 円 )
5. 調査研究活動の概要

別紙のとおり



北海道大学の宮脇淳教授の講演をオンラインで受講しました。

### 【なぜSDGsを取上げるのか】

現在のコロナ禍、またアフターコロナを見据えて政策検討をすることが必要である。中長期的な視野に立って議会・政治家として体系のある議論をしていかななくてはならない。住民のニーズが届いていると思うが、その中身は「なったらいいな」というものと、「地域におけるジレンマ」（板挟みの状態）のふた通りがあると思う。このようなものを分けていくためにも、SDGsというものの考え方は大きな物差しになる。

地域に密着した政策展開がもともとめられていくことから、どのように地域政策に規範性を持たせるためにSDGsを活用し、地域課題に対して適用しながら結論を出していくことが必要になる。議会が中心となって具体化を進めていくべきである。議会は問題提起をするだけでなく、様々な解決策を提案することも重要である。

### 【SDGsとは】

SDGs = Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標

持続性 = 次世代の選択肢を奪うことなく、今の世代のニーズを満たすこと  
全世代型社会保障、例えば高齢者のニーズをすべて実現しようとすると、現役世代あるいは次世代の人たちに大きな負担がかかることになる。そうならないように次世代の選択肢も尊重しながら、高齢者のニーズをどう満たしていくかが政治が担うべき課題である。

開発 = あたらしいものを生み出すこと。課題対象に働きかけて発展向上させ、人間の役に立つかたちにかえる。  
開発というと道路や橋、建物などをつくるというイメージがあるが、開発というのは新しいものを生み出すことである。今の住民だけでなく次世代の住民にも役に立つ形に変えていくことが重要になる。

目標 = 先進国も含め 2030年ターゲット

### 【SDGsと地域政策の規範連動】

- ① 地域政策の視点としてどう設定するか
- ② 地域政策としての目標設定・手段設定
- ③ 基本構想、分野別計画への具体的反映。

### 【政策議論の基本】

#### 1. 出来事と事実を分ける

- ① 出来事 個々人が経験していること
- ② 事実 多くの人が共有できること  
データ、情報による根拠

## 2. 政策の対象は事実

- ① 事実      A なったらいいな  
              B 社会的ジレンマ

- ② 政策の対象たる事実 = 社会的ジレンマを抱えた事実  
(多くの人が共有できること)

### 【地域の持続可能性】

- ① 公共交通等持続可能な輸送システムの構築
- ② 自然災害リスクの軽減
- ③ 安全な緑地・公共スペースへのアクセス確保
- ④ 都市と農村の良好な繋がり
- ⑤ 現地資源の活用（地産地消）

SDGsを総合計画や基本構想に盛り込んでいるのであれば、問題提起や予算、計画策定に向かって、SDGsが掲げていることを地域版に結び付けていくことが重要である。

また、内部要因・外部要因を考える。地域資源があるということは内部要因で、強みになる可能性がある。しかしそれを外部要因に結び付けなければ効果が出ないということになる。

### 【所 感】

SDGsをどのように政策に結び付けていくか、どう見極めて政策に反映するのかについて、具体例を挙げながらの講演でした。より多くの住民のニーズを把握することや、地域資源をどのように活用し地域を繋げていくのかなど大変参考になりました。また、分析の手法なども今後活用してみたいと思います。

浜田市でもSDGsを計画に取り入れています。市民の皆様に理解と協力をいただくことが推進のカギであると考えことから、その進め方についても今後提案していきたいと思っています。